特253
295

安八農書第五輯

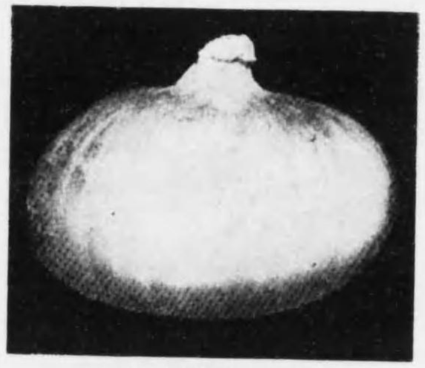
葱頭の增收法

岐阜縣安八農學校

始

露光量違いの為重複撮影

泉州黄葱頭（中甲高）



泉州黄葱頭（平型）

本校產葱頭　一箇二百匁

特253
295

目次

（一）まへがき
（二）栽培上の諸注意と性質
（三）どんな品種がよいか
（四）栽培法
（五）收穫及貯藏
（六）昭和十七年收穫の本校葱頭栽培暦並に收支決算
（七）本校にて昨年度行つた試驗成績
（八）終稿にあたりて

安八農書第五輯として「葱頭の增收法」に就て本校農場主任兼蔬菜園主任水野敬諭の實習成績を印刷に附し卒業生並に當業者の參考に供せんとす。

昭和十七年九月

岐阜縣安八農學校

露光量違いの為重複撮影

特253
295

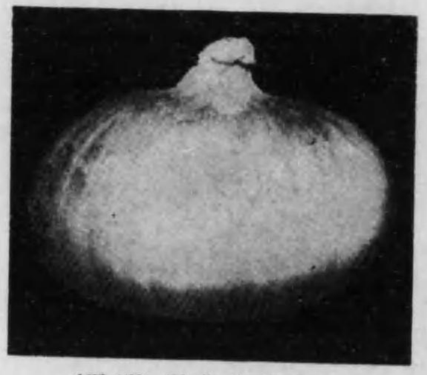
目次

(一) まへがき
(二) 栽培上の諸注意と性質
(三) どんな品種がよいか
(四) 栽培法
(五) 收穫及貯藏
(六) 昭和十七年收穫の本校葱頭栽培暦並に收支決算
(七) 本校にて昨年度行つた試驗成績
(八) 終稿にあたりて

安八農書第五輯として「葱頭の增收法」に就て本校農場主任愛農園主任水野敬藏の實習成績を印刷に附し卒業生並に篤農者の參考に供せんとす。

昭和十七年九月

岐阜縣安八農學校



泉州黃葱頭（平型）

泉州黃葱頭（中甲高）

本校產葱頭 一箇二百匁

葱頭の増收法

岐阜縣安八農學校　水野一二

（一）まへがき

葱頭は明治初年フランスより輸入された所謂西洋蔬菜の一つである、當時は北海道其他の各地に局部的に少量栽培されたに過ぎなかつた。それが大正の末期から昭和にかけて長足の進展を遂げてゐる、即ち大正十年には其の栽培面積二七八一町歩に過ぎなかつたが昭和十三年には一一、九四五町歩（四倍半余）を示してゐる。斯の如く其の栽培面積の増加は將に驚異的で最近斯様に増加率の多い蔬菜はその數極めて稀である。

葱頭は栽培容易にして長期貯藏輸送に耐へる關係上今後需要は一層増加するものと思はれるので、之れが増産と改良を計るは戰時下蔬菜確保の上から喫緊の要務である。更に榮養的考察をすれば消化良く主成分たる硫化アリールにより腦の強壯劑ともなり、体内に於ける解毒發汗作用を促し、淨血作用を有し、ビタミンBCに富む等其の價値大なるものあり、決戰下の蔬菜として其の雄なるものと謂へやう。

（二）栽培上の諸注意と性質

一、葱頭は連作可能であること。全國第一の大栽培地である大阪泉南郡には二、三十年來連作を續けて其の生育收量に少しの影響も無く寧ろ品質は優良化するとさへ認められてゐる。

二、葱頭は酸性に極めて弱い蔬菜である事、適當なる發育を遂げた優良苗を適期に栽植したものが、其の後の發育遲々と

して振はず、如何に肥培管理を綿密にしても種の親玉の如きものしか收穫出來ざるが如きは、十中八九まで其の圃場の酸性なるに起因すると謂ふも過言ではあるまい。

三、優良苗の育成に努むること。苗半作と謂はれる。苗の良否は品質收量に少なからぬ關係をもつもので、增收栽培を企てるに際しては特に注意を拂はなければならない。

四、冬季雨雪少く乾燥に失するときは抽苔數多きこと。

五、土質は酸性土でない限り如何なる土地でも相當な成績が得られる、一般に砂壤土のやうな輕鬆土は球莖の發育がよく收量も多いが充實不良で長期の貯藏に堪へない。粘質地のやうな重土では莖葉のみ徒長し易く球の發育十分でないが充實よく貯藏に耐へる得點がある。要するに何れの土質に於ても、整地を丁寧にし堆肥等の有機質肥料を多く施し、石灰を適量使用することが肝要である。

六、相當密植栽培を行ひ施肥法を合理的にすること。

(三) どんな品種がよいか

葱頭の品種には色々あるが、皮色によつて黃葱頭、赤葱頭、白葱頭の三種類に分けることが出來る。黃葱頭は性質强く作り易く收量多く、しかも貯藏に耐へ品質優良である。赤葱頭は性質强健で收量は多いが、形狀不整品位下劣で辛味が强い。白葱頭は一般に早生で品質優良であるが收量少く貯藏に耐へない。かうした栽培、品質、收量、貯藏力等の關係から又需要者の嗜好の上からも黃葱頭が最も多く作られる。黃色種のうちにも多少型質を異にしたるものがあるが、泉州黃葱頭の腰高(中甲高とも謂ふ)のものがよいやうである。

426
85

(四) 栽培法

一、育苗 播種期は地方の氣候によつて決定しなければならない、一般に早播は大苗となり抽苔の歩合多く遲播は發育遲れ增收は望まれない。本地方の適期は九月十五日から二十日頃と思はれる。

播種床を設置する場所は肥沃で輕鬆な土地を選定し、播種凡そ十日程前に耕起し、苗床十坪に對して人糞尿十貫及草木灰一貫匁を撒布して混ぜ、播種當日更によく耕鋤粉碎し幅四尺長さ適宜の平床を設け表面を均整ならしめて播種する。播種法は撒播或は條播何れでもよいが、條播の場合は幾分苗床を多く要する。播種量は坪當り三勺內外で反當十二坪位の苗床が必要である。播種を終つたら板で强く壓へつけのち腐壤土を一分內外の厚さに篩ひかけ麥稈又は藁を薄く覆ひ細目の如露で灌水する。

播種後は時々如露で灌水し適濕を保たせる、一週間位で發芽を始めるから覆つた藁を除く、其の後除草に注意し密生せる所を間引く、苗が三寸內外に伸びたとき二、三倍の人糞尿を與へる。又九月中下旬旱魃甚だしき時幼苗にスクツブス發生して困ることがあるが斯樣なときはデリス石鹸又は硫酸ニコチン等の接觸劑を撒布し苗には充分灌水する。

二、植付時期 植付時期が早ければその後氣溫が高いため發育よくて成熟期早く抽苔歩合は多いが收量を增す。植付時期が遲ければ抽苔歩合は少ないが生育振はず到底增收は望まれない。本校で試驗した結果は末尾に揭げた通り、植付時期早きもの程收量多く十二月十八日定植區最も不成績である。之を要するに本地方の定植適期は十一月下旬乃至十二月上旬と判斷される。

三、植付法 植方の粗密は收量に至大な關係のあるもので愼重に研究せねばならない。普通は二尺畦には二條植五寸距離

位が採用されてゐるが、大阪泉南部の所謂本場地方では畦巾を三尺とし。畦上三條植三寸五分距離、反當三萬本内外を定植するのが最もよいと謂はれてゐる。

本校に於て試驗した結果は後掲の通り密植したもの程收量多く、最も密植した反當四萬二千本區に於て三千百余貫匁となつてゐる。此の試驗は數年の平均結果によらなければならないが、密植したもの程球は小さくなるが收量が多いと云ふ傾向だけは明らかである。

植ゑ方は準備した畦に指先で五、六分の穴を穿ち根部を植穴に挿入して壓へる、此の場合葉先を三分の一ばかり剪り根部も半分位に剪除して植ゑる向もあるが、出來ればそのまゝ植ゑた方が其の後の成績がよいやうである。植付後は灌水をして活着をはかる。

四、肥料 葱頭の增收を圖る上に極めて密接な關係がある、試驗場の試驗結果を見るに、堆肥、窒素、燐酸、加里、石灰を施した所の堆肥加用四要素區の成績が最もよく無石灰區が最も劣り其の成績に著しい隔りがある、即ち增收の上に堆肥と石灰は絶對に必要で、殊に石灰は土壤酸度を中和する上に不可避で、反當四、五十貫匁を耕起の際に撒布するのである。又硫安のみで栽培した玉葱は莖葉短大でその色澤濃綠で、のんびりせず葉先が常に枯れて收量が少い。本校の肥料標準（反當）を示すと次のやうである。（次表參照）

基肥に約六割を使用し殘りの四割を追肥とする。第一回の追肥は定植後十日目位に、第二回目は一月下旬から二月上旬薄い下肥を多量に、第三回は莖葉の發育が盛んにならうとする前即ち三月中下旬に人糞尿その他速効性の肥料を施して止肥とする、四月になつて多くの肥料を與へることは單に收量を增す上からいへば有利であるが、品質を著しく不良にする即ち球莖破裂して不整形となり、色澤を損じ貯藏に耐へなくなる。

種類	數量	基肥	追肥 第一回	追肥 第二回	追肥 第三回
堆肥	三〇〇貫	三〇〇貫			
油粕	一五	一〇			
過石（精）	一〇	八			
人糞尿	三八〇		一〇〇貫	一三〇貫	一五〇貫
硫安	五				二五
木灰	三〇	三〇			三
石灰	四〇	耕起の際に			

五、管理〔中耕〕活着後防乾と根の浮き上りを防ぐ意味から丁寧に中耕を行ひ根際に土を寄せかける、二回目は三月上中旬、第三回は四月中旬に行ふ。〔防乾〕條間に藁、麥稈、未熟堆肥等を敷くことは有効であるが、中耕や施肥の場合支障を來すから、なるべく腐熟堆肥か籾殼などを敷く、〔沈壓〕一、二月の頃霜柱のために根部浮き上り、中には倒伏するものもあるので、二月下旬指先で根元を壓へる。〔莖葉の捻轉〕この目的は莖葉の發育を抑制し球莖の肥大生長を促すのであるが、順調に發育したものは六月上旬になれば自然に首の部分が細くなり倒れるもので、殆んどその必要を認めない。當業者中には未だ莖葉の發育最中既に捻轉を行なへるを見受ける事があるが之は返つて球の發育を阻止し、自ら減收を求めてゐる行爲で注意すべきである。若し行なはんとするなれば五月下旬莖葉の發育猶中止せざるもののみに丁寧に折れないやうにするのである。〔抽苔株の除去〕適當な苗を選び其の後の發育が順調の場合に於て約五%の抽苔をするもので、この位抽苔するものでないと收量の多くを望むことが出來ない、抽苔は四月下旬頃からであるが初期であると葉葱頭として葱代用に賞味される。〔病虫害防除〕病害の主なるものはベト病、赤銹病、黑澁病、黑穗病等であるが之等は皆

發病の初期に病葉を除くか、カゼイン等の展着劑加用の四斗式ボルドー液を撒布する。虫害にはスクツブス、種蠅位のもので前者は旱天の續くとき大發生をすることがある、葱頭栽培には苗の期間即ち九、十月頃前述のやうな注意が肝要である。種蠅は基肥に大豆粕等を使用した場合其の幼虫が定植當時の地下部を喰害することがあるから大豆粕等は株より離れた場所に施すか、よく腐熟した後定植すべきである。

(五) 收穫及貯藏

六月上中旬葉倒伏鱗莖充分肥大したる頃始める、降雨直後に收穫したものは貯藏中腐敗し易いので、晴天の日を選ばねばならない。貯藏用のものはよく乾燥したるものを通風のよい乾燥した場所に並べるか、葉付のまゝ七個乃至十個をくゝり竿につるす、大阪府泉南郡の産地では藁葺で軒の深い貯藏小屋を建て、これに地上三尺の所から二尺内外の距離に丸太或は竹を渡し之に吊して貯藏する。

(六) 昭和十七年收穫の本校葱頭栽培暦並に收支決算

一、葱頭栽培暦

九月十五日　播種
十月三日　除草
十月十一日　間引　除草
十月廿二日　下肥三倍液施與
十一月四日　下肥三倍液施與
十一月廿五日　本圃植付準備
十二月二日　定植
十二月二十日　中耕　第一回追肥(下肥三倍液)
二月十四日　根元沈壓、第二回追肥(下肥五倍液)
三月十六日　第三回追肥(油粕五貫硫安三貫過石二貫)
三月廿八日　第四回追肥(下肥三倍液)
四月廿七日　抽苔せるものを除き販賣、除草
五月十三日　抽苔せるものを除き販賣、除草
六月十日　收穫初め

二、收支決算(反當)

支出の部			收入の部			差引殘高	備考
種子	肥料	小計	收量	單價	金額		
一二円	三四円	四六円	一、六〇〇貫	三〇錢(實當)	四八〇円	四三四円	差引高四三四圓ニハ勞賃、地代ヲ含マズ葱頭一反歩ニ要スル勞力ハ岐阜市農會ノ調査ニヨレバ二十一人三分デアル

(七) 本校にて昨年度行つた試驗成績

一、玉葱の播種期と收量との關係調査
二、玉葱の定植時期と收量との關係調査
三、玉葱植付の粗密と收量との關係調査

其の成績は次の通りである。僅か一年の調査で謂はゞ餘りあてにならないものであるが、各地の試驗結果に近似の成績であり大体の傾向は之によつて知ることが出來ると考へる。諸彦の叱正を乞ふ次第である。

一、葱頭の播種期と收量との關係

區別	播種期	總個數	總重量	百匁以上 個數	百匁以上 重量	百匁以上九匁以下 個數	百匁以上九匁以下 重量	四十九匁以下 個數	四十九匁以下 重量	抽苔歩合
第一區	九月十五日	一二四	一四、四〇〇瓩	一〇六	一、三〇〇瓩	一六	一、三五〇瓩	二	〇、二六六瓩	一一%
第二區	九月廿四日	一二六	一二、三六五	九八	一〇、七六〇	二一	一、三七〇	七	一、二五〇	一〇%
第三區	十月三日	一三八	一二、〇〇五	七六	八、一〇〇	五四	三、七四五	五	一、一六〇	一、五%
第四區	十月十五日	一三二	六、五〇八	六	六八〇	五七	三、四九八	六九	二、三三〇	

備考、栽植の廣さは各區とも二尺畦二條植五寸距離とした。

二、葱頭の定植時期と收量との關係

區別	定植時期	總個數	總重量	百匁以上 個數	百匁以上 重量	平匁以上九十九匁以下 個數	平匁以上九十九匁以下 重量	四十九匁以下 個數	四十九匁以下 重量	抽苔歩合
第一區	十一月廿五日	一二九	一一、九〇二匁	六九	七、七五〇匁	四九	三、九〇七匁	六	二四五匁	六、五%
第二區	十二月二日	一三〇	一一、八〇〇	五七	六、七〇〇	六三	四、七〇〇	一〇	一、四〇〇	五、八%
第三區	十二月八日	一三二	一〇、九〇五	三一	三、九五〇	六六	五、一五五	三五	一、八〇〇	四、四%
第四區	十二月十八日	一三六	九、三〇七	五	七〇〇	九七	七、五〇〇	三四	一、一〇七	一、一%

備考、植付の廣さは二尺畦　二條植　五寸距離

本試驗に使用した苗の播種期は九月十五日

三、葱頭植付の粗密と收量との關係

區別	畦巾	植方	總個數	總重量	百匁以上 個數	百匁以上 重量	五十匁以上九匁以下 個數	五十匁以上九匁以下 重量	四十九匁以下 個數	四十九匁以下 重量	同上反當植付數	同上反當收量	抽苔率
第一區	二尺	二條植	一一二	一一、〇二〇匁	四八	六、〇三〇匁	五八	四、七五〇匁	六	二四〇匁	二一、六〇〇本	二、一一七貫	三五%
第二區	二、四	三條植	一五一	一三、二八七	四四	五、五六三	八八	七、一八五	一七	五三九	二七、〇〇〇	二、三七六	一〇
第三區	二、一	三條植	一六二	一三、五五〇	四一	四、八一九	一〇一	八、〇五三	二一	六七八	三〇、八五七	二、五八〇	七
第四區	一、八	三條植	一六三	一二、七九五	三八	四、四五〇	一〇〇	七、五五〇	二五	七九五	三六、〇〇〇	二、八二六	六、四
第五區	一、五	三條植	一六五	一二、二八一	三九	四、二五〇	一〇三	七、五五〇	二一	四八一	四二、二〇〇	三、一四〇	五、二

備考、植方の欄の二條植、三條植共に五寸距離植とす。本試驗に使用せし苗は九月十五日播種とす。

（八）終稿にあたりて

大東亞決戰下各方面における食糧品の需要極度に增加したる結果未曾有の食糧難に脅かされることに立至つた。從つて吾々銃後國民は一致協力萬難を排して食糧品の增產に邁進することが重大な使命である。斯る見地から蔬菜は從來の栽培面積を適當に減反しこれを米麥共の他主要食糧品の生產に充て、然しながらも現在の生產額より以上增產に努めなければならない。

葱頭は土地を選ぶこと少く栽培容易にして長期貯藏と運搬に適し且榮養値大なる點より、決戰下必需蔬菜として益々重要性を增し、就中都市蔬菜不足の解消に一段と增收を計らなければならない。

426
85

昭和十七年九月十日印刷
昭和十七年九月十五日發行
（非賣品）

發行所　岐阜縣安八農學校
岐阜縣大垣市末森町
編輯兼發行者　岐阜縣安八農學校
印刷者　奥田清二
岐阜縣大垣市西外側町二丁目
（中岐一〇八）
印刷所　奥田印刷所
岐阜縣大垣市西外側町二丁目
電話五五九番

終